

Title	セルフ・ナレッジを豊かにする—多文化グループワークにおける知識プロセス—
Author(s)	李, 曉燕
Citation	
Issue Date	2011-12
Type	Thesis or Dissertation
Text version	author
URL	http://hdl.handle.net/10119/10049
Rights	
Description	Supervisor: 梅本 勝博 , 知識科学研究科, 博士

セルフ・ナレッジを豊かにする —多文化グループワークによる異文化間理解—

李曉燕

現在、グローバル化が世界を席卷している。多文化グループワークはビジネス、教育、科学技術などの分野で広く見られるようになってきた。それに伴い、第二言語教育のニーズがますます高まってきている。本研究は、多文化グループワークを取り入れた異文化理解のための総合活動型教育を事例研究にし、多文化グループワークの理論的モデルを構築し、今後の第二言語教育のあり方についての実務的提言を行うことである。

先行研究レビューによれば、「言語」も「文化」も知識であり、それぞれ「暗黙的」、「暗示的」と「明示的」な部分がある。セルフ・ナレッジは、対人関係の自己、拡張された自己、プライベートな自己、および自己概念など、経験を通じて得た言語的知識と文化的知識であり、それに基づいて構築される自己認識、および行動規範などのノウハウである。言い換えれば、セルフ・ナレッジはその人のすべての明示的、暗示的、暗黙的な知識が含まれ、言語・文化知識はセルフ・ナレッジの一部である。言語と文化は「一つのコインの両面」というメタファーで表されるように、分離不可能である。本研究は、早稲田大学日本語教育研究科細川英雄教授の「考えるための日本語」クラスを参与観察した事例分析からなる。2010年4月より7月まで早稲田大学のオープン科目としての総合活動型「考えるための日本語」、および同大学日本語教育研究科修士課程学生を対象とする「実践研究 11」に出席し、早稲田大学総合活動型教育において、多文化グループワークはいかに行われているのかというのをメジャー・リサーチ・クエスチョン（MRQ）として、学習者主体の学習実態および異文化交流の背景で多文化グループワークのプロセスを明示化するための調査を行った。

発見事項は主に次の三つである。第一に、早稲田大学日本語教育研究科・細川英雄教授の総合活動型教育の事例分析からの発見事項と先行研究レビューから得られた知見を基に、多文化グループワークによる異文化理解教育の ASCI モデルを提示する。ASCI モデルは、異文化理解教育における言語文化の相互理解のプロセスを説明するものであり、「言語化」、「社会化」、「統合化」、「内面化」の 4 つのフェイズからなる。4 つのフェイズがスパイラルに展開することで、多文化グループワークのメンバーが互いに言語文化を理解し、セルフ・ナレッジが豊かになっていく。第二に、グループメンバーの協働は、言語文化を相互理解し、言語文化知識を豊かにする原動力になる。多文化グループワークにおいては、言語文化を統合的に習得することができることがわかった。第三に、教師とファシリテーターは「ナレッジリーダー」として、グループワークの「場づくり」に仕掛ける役であることがわかった。

本研究の学術的意義は、従来の状況的学習論がある職業集団などのほぼ同質的なグループにおける参加や協働を通じて同質的な知識が共有されることを発見・記述したことに対して、異文化理解教育において異質なメンバーから構成されるグループにおける参加や協働を通じて、異質な言語文化という知識がいかに共有され、新しい知識が創造されるかを明らかにし、それを理論的モデル化したことである。本研究の社会的意義は、留学生のみならず日本人学生をも含めて、言語文化を習得できる異文化理解の教育とい

う新しい教育のあり方を提示したことである。他の学習者と協働しながら行われる言語文化の習得は、「内言」を「外言」に転換する模索のプロセスでもある。コミュニケーションスキルの改善により、学習者のセルフ・ナレッジが豊かになり、グローバル社会に適応できる人間の形成に貢献できる。